

一般質問を続けます。

2番、呉羽真弓さん。

(呉羽 真弓君登壇)

○8番(呉羽 真弓) 呉羽真弓です。4問、質問いたします。

まず1問目、木津川市を活かす教育の多様性を求めて、当尾小学校の統廃合にかかわってお聞きいたします。

言うまでもなく、本市は文化学術研究都市と歴史・文化・自然に恵まれた環境をあわせ持っている市であります。学校の設立も、1872年開校の木津小から2007年開校の州見台小と、その歴史も実績も、そして可能性も、多岐

多様な形をあわせ持った我が市の教育であると思います。そこで、この多様性を我が市の特性として位置づけ、一層木津川市ならではの教育環境を進めるべきとの思いにより、質問をいたします。

当尾小学校に小規模特認校制度の導入を求める要望書並びに広範な議論ができる場の設定を求める請願書が提出されている現在です。そこで、まずこれまでの教育委員会の進め方の問題点を指摘したいと思います。

第1に、余りにも結論づけが性急過ぎます。5月26日の新聞報道によりますと、「ことし2月に市教委が開いた保護者説明会で、存続は困難な状況、来年4月、南加茂台小と統合させたいと、初めて統廃合の考えを示した」とありました。初めて、この考えをこの時点で示した。そして、次年度から南加茂台へという、このような進め方というのは、年間行事を計画し、学校を運営していくということを考えると、あってはならない進め方だというふうに思います。そこで、細かく3点、まず質問します。

1. どの時点で、来年4月南加茂台小と統合と市教委は考えを決定されたのでしょうか。

2. その考えに対して、保護者・地域・学校の意見はどうであると認識されておりますか。

3点目、統合予定としている南加茂台小学校地域に対しての説明会の実施はされたのでしょうか。

この件に関しては、三つお聞かせください。

次に、問題点の二つ目、アンケート実施にかかわる問題点を指摘したいと思います。

昨年、教育委員会がとったのは2回アンケートがありました。5月にとられた当尾小保護者31世帯に対して存続か統合かの希望を問うたものと、8月に近隣の五つの小学校21年度就学予定の保護者に対して、当尾小へ通学を希望するか否かを問うたもの、この二つのアンケートでした。

この二つのアンケートは、教育委員会としての考えを結論・理由づけするためにとられたアンケートと言えると私は思います。このとり方が非常に問題と指摘したいと思います。そこでかかわって聞きます。

1点目、加茂町の教育委員会における当尾小学校への小規模特認校制度についての意思はどうであったのでしょうか。

2点目、アンケートをもとにした考えではなく、市教委としてこの制度に対する認識はどうなののでしょうか、お聞かせください。

その上で、1から市全体を見据えた学校のあり方、子どもの教育環境はどうあるべきなのか、そして地域社会はそれにどうかかわっていくかなど、議論ができる場を改めて持つべきであると思います。その考えをお聞かせください。

以上、明快にお聞かせください。

○議長（中野 重高） 教育長。

(教育長 久保 三左男君登壇)

○教育長(久保 三左男) 教育長です。

呉羽議員のご質問にお答えいたします。

平成20年12月22日に実施した当尾小学校PTAを対象にした説明会の結果を平成20年12月24日に開催された定例木津川市教育委員会において報告し、平成22年4月に統廃合するのが妥当との意見をいただきました。その結果を平成21年2月12日に開催した当尾小学校保護者説明会にお示しをいたしました。

説明会では、「統合した際の児童の通学手段」や「安全」「受け入れ体制」「統廃合後の校舎活用」について等の意見も出ましたが、「統廃合反対」「特認制度による存続希望」などの意見が多く出されました。

南加茂台小学校の保護者の方々に対する説明会は、現時点では実施しておりません。

当尾小学校の統廃合問題につきましては、旧加茂町から懸案事項となっております。当尾地域の児童数が極端に減少し、平成15年当時42名の児童数であったが複式学級をつくらなければならない状況がありました。

当時の教育委員会で当尾地区在住の方を対象に実施されたアンケートでは、小規模特認校制度の導入による存続を望む声が多く、加茂町教育委員会においても、一時はその方向であったと聞いておりますが、実施には至りませんでした。

小規模特認校制度は、あくまでも特異な制度であり、近隣の状況を見ても不確実な要素や不安な要素があり、積極的に取り入れるべき制度ではないと考えております。

以上です。

○議長(中野 重高) 呉羽さん。

(呉羽 真弓君登壇)

○8番(呉羽 真弓) 一番最初におっしゃっていただきました教育委員会の統廃合をするのが妥当との意見をいただきましたというのを、12月24日の定例会においてその意見をいただきましたというふうに書かれております。

私は、この教育委員会の会議録を情報公開請求していただいております。その中に見える、この進め方を紹介いたします。

まず一番最初に、当尾小学校の統廃合問題にかかわっての説明があったのが11月、今言われた12月の前に開かれた11月の定例会議の中にありました。それは、わずか1ページにも満たない、当尾小学校に対してアンケートをとっていますというようなことでありました。

そして、次のこの12月定例会、今言われました12月24日に開催の定例会において、保護者対象説明会の報告並びにアンケートに対する質疑・応答などが2、3ページにわたってされております。今言っていただきました「妥当

との意見をいただきました」というのは、どこにあるのでしょうか。

例えば、委員長さんの「加茂町時代から当尾小学校の存在は難しいのではないかと考えていました」であるとかという意見は見えますが、委員会としてそのような意見を皆さんで確認しましたというような発言は一切ありません。何をもって「妥当との意見をいただきました」と言われるのか、疑問であります。明快にお聞かせください。

その質疑の中で、非常に問題と思われる発言が多々あります。「22年4月が一つのポイントとなる。21年9月議会、条例改正をする必要があるので、時間もありません」と当時の理事が述べられております。

また、教育部長は、「教育委員会としては統廃合という回答しかなく、特認校で存続ということはあり得ないと考えています」というふうにもあります。

また、説明会の様子を求める委員に答える形で、「反対するための反対論であり、どう考えているのか、いつ統合を行うかというような議論にはならないのが現状、同じ方からの発言や意見ばかり、まともな発言もできない状況の説明会でした。教育委員会としては保護者の意見を聞きたかったが、それができませんでした」というような教育委員会側のご報告並びに説明があります。

これらの会議録から感じる教育委員会の姿勢は、まさしく統廃合ありきの考えを委員並びに保護者の方々に押しつけているとしか感じられていません。教育委員会の考えを受け入れられないというような意見に対しては、並行しているようにさえ私は感じます。これでは、ともに考えていく姿勢が全く感じられない、とても残念であります。

135年にわたって長年地域のシンボルとして愛され、親しまれ、地域にとってかけがえのない拠点である小学校を今後どうしていくのか。保護者のみならず、地域の重要な問題であるという認識が教育委員会の報告や答弁の中ではみじんも感じられないのが本当に残念なことだと思います。それについて、考え方をお聞かせください。

そして、さらに本年2月の定例会会議録には、「地域住民への説明はどうするのか」に対して、「区長さんだけを対象にすればいい」というふうに部長が答えておられます。これでは、総合計画に掲げている市民と協働のまちづくりが絵に描いたもちになります。初めての学校統廃合、適正化配置を考える進め方として、この進め方が最善と認識してのことなののでしょうか、お聞かせください。

今後の進め方について、先ほど答弁がいただけませんでしたので、いま一度、十分保護者並びに地域の人を交えた広範囲な方たちの意見を聞いて、この学校の将来を考える、ひいては木津川市の多様な教育を考える、そのきっかけにしたい、すべきだというふうに私は思いますので、その考えを再度お聞かせください。

○議長（中野 重高） 教育長。

(教育長 久保 三左男君登壇)

○教育長(久保 三左男) 教育長です。

呉羽議員の質問にお答えをいたします。

教育委員会の議事録の部分をそれぞれ上げていただいて、どういう討議をされたかということのご質問がありましたけれども、教育委員会の議事は、いわゆる一定いろんなやりとりの中で出てくるものですので、部分的なものを取り上げられたら議員のおっしゃるような場面があったかもしれませんが、全体としては我々は先ほど答弁したような内容で推移してきたというふうに判断しておりますので、よろしく願いいたします。

平成22年4月の統合ということにつきましては、実は前の理事が申し上げましたように、当尾小学校は非常に重大な時期を迎えることになります。議員はご承知かどうかわかりませんが、小学校の児童数が25名を切るということは、学校経営をする者にとりましては非常に大きな転機になるわけです。そのことは、京都府のいわゆる学級数の設置基準を定める中で、25人以上の学校については複式学級を、複式学級というのは、二つの学年の児童数が少ないので、これを二つの学年を一つにして1クラスとする制度であるわけです。

これは、京都府内でも何校かはありますし、複式学級の指導方法については一定の研究はなされていますけれども、願わくば保護者の気持ちとしては、それぞれの単学級で指導・教育を受けたいという願いが本来的な親の気持ちだと思います。

25名以上の児童数を有する学校でもしも複式学級を設置しなければならない人数ですね、これは定めがありまして、二つの学年で12名以下になったということになります。12名以上であれば、それぞれ単独の学級を設置することはできるけれども、5年生が5名で6年生が6名と、合計11名というときには、これは複式学級となるわけですし、その複式学級を設置する、いわゆる複式学級の数を25名以上の児童数のときには1クラス以上してはいけないというふうになっているんですけれども、24名を割りましたら、24名を割るということは、それぞれの学年の児童数の数も減ってくるわけですので、12名以上の児童数が数えられないという段階になりましたら、複式学級は2クラスも3クラスも出てくるわけです。24名以下になりましたら、実は複式学級を2クラスまで設定可能と、いわゆる複式学級を2クラスというふうになってくるわけですので、当尾小学校の現在の児童数は25名ですけれども、平成22年4月には19名になります。平成23年4月には11名になります。よって、当尾小学校にとりましては、平成22年の4月というのは、非常に大きな、いわゆる開校以来の危機的な時期に至るわけです。だから、こういうことを見通して、理事は平成22年4月は非常に大きな時期を迎えるというふうに説明しておりますので、ご理解を願いたいと思います。

今後の進め方につきましては、そのようなことですので、そもそもこの当尾

小学校の統廃合についての取り組みを、加茂町時代から一定の経過はありますけれども、新しい木津川市でスタートしたのは、議会の皆さん方のご意見をもとにして我々はスタートしているわけですので、一定、皆さん方の意見を聞いて物事を進めてきております。決して、教育委員会が独断で当尾小学校を早いこと統廃合せなあかんというような気持ちで進めているわけではありません。議会の皆さん方のご意見の中で、当尾小学校に子どもたちを通学させている保護者の意見をとにかく聞くことから始めてくれということのご意見を受けて教育委員会としてのアンケートをとってきたわけですので、決して独断で物事を早急に進めるといようなことはしておりません。そのことをもとにしながら進めていきましたら、教育委員会がとりましたアンケートでは、72%の方々が統廃合を進めてほしいと、自分の、いわゆる当尾小学校に子どもを通わせている子どもの親としては一刻も早くそういうことを進めてほしいという希望がありましたので、そのことをもとに保護者に対する説明会をやる行ってきたような、そういう経過がありますので、そのことをご報告しておきます。

なお、今後の進め方につきましては、やはり当尾小学校に子どもたちを通わせている保護者の皆さん方のご意見を聞いていくのが一番大切ですし、そのことを進めてきておりました。今後も、いろんなご意見も寄せられておりますので、当尾小学校に通う子どもたちのためにどのようにしていったらいいかということをもとにしながら話し合いを進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（中野 重高） 呉羽さん。

（呉羽 真弓君登壇）

○8番（呉羽 真弓） るる述べていただきましたが、学校のクラスのことにはちょっと少し置いておいても、やはりこの保護者の説明会、保護者の気持ちを大事にといいるところと、やはり地域の小学校であるという、拠点であったといいうところから見たら、地域に対する十分なる説明であったり、地域とともに考える姿勢というのが全く感じられないといいうところ私は残念でならないので、そこのところ、地域の説明会、区長さんどまりではないところの説明会なり意見の吸い上げを今後していったら、ともに考えましょうという姿勢があるかどうか、確認したいと思います。

やっぱり南加茂台小学校の説明もしていない段階で、平成22年4月の統合をといいうような、このスケジュールは見直すべきだといいうふうに思いますので、それについての考えを聞かせてください。

学校といいうのは、もう教育長は当然先生でしたので、よくご存じで、私が言うまでもない、釈迦に説法だとは思いますがけれども、1年切ったこの中で、来年は南加茂台に行くんだよと、じゃあ一緒に交流しようといいうことがあって当然しかるべき進め方だと思います。

私はもちろん統合ありきの考えではありませんが、そういうことができいて

ない以上、22年4月ということは見直すべきだというふうに指摘したいと思いますので、その考え方を確認したいと思います。

○議長（中野 重高） 教育長。

（教育長 久保 三左男君登壇）

○教育長（久保 三左男） 呉羽議員のご質問にお答えいたします。

これ、全国的に少子化が進んできております。いわゆる、大都市であります京都市内でも小学校や中学校の統廃合が進んでおります。これは、子どもたちが学ぶためには、一定の学校規模というものがやっぱり必要であるという、最終的には親御さん考えですね。それとは一方に、やっぱり自分母校がなくなる、地域から学校がなくなるということに対するやっぱり一定の思いがあります。

私ごとで申しわけないですけれども、私は南山城村の田山小学校というところを卒業したんですけれども、今は既に統合されてありません。卒業生の一人としては、自分の母校がなくなるということは非常に断腸の思いでもありますし、そういう点では、一般論としましては、いつまでも自分の学んだ母校が残ってほしいという気持ちは持っているわけですけれども、しかしそれだけでは、いわゆるその思いだけではいかない時代に入ってきているということですね。

相楽地方の状況を見ましてもそうですし、先ほども言いましたけれども、京都市内という非常に長い歴史を持つ、日本の小学校の元祖である、いわゆる教育制度をスタートした小学校でさえ、いろんな方法を持ちながら、地域の皆さん方の知恵も集めて統廃合してきているという実情が現在の状況ですので、当尾地区の将来をどう考えていくかという問題と、当尾小学校で現在学んでいる子どもたちの教育をどうするかということとは、少し、全くすべてイコールではないというふうに教育委員会は思っております。

もちろん、このことがイコールになればいいんですけれども、そういうことを許さない状況に現在の日本の社会、いわゆる少子化ということが来ているということを認識して、そしたら入学生が1名だという子どもの教育の保障をどうしていくかということを考えていくことが必要じゃないかというふうに思います。

なお、木津川市内には17の小・中学校がありますけれども、そのうち13は小学校です。木津川市内の義務教育の小学校は、木津川市の教育委員会としましては、まず均一性、いわゆるどの学校で学んでも、小学校の学習指導要領に従った教育がどの学校で学んでも等しく受けられるということが一番の主眼に考えていきたいと思っております。

だから、この学校はこんなすごい特徴がある、この学校はこんなすごい特徴があるということを小学校段階の義務教育の初等教育の段階ではするべきではないというのが教育委員会の考え方でして、やっぱり木津川市内の小学生については、一定平等性を考えた、どの学校でも同じことを学んでいる、それにプラスそれぞれの地域の特色を生かしたものを生かしていくということですね。

ども、地域の特色が主になるような教育を進めていくということは、そういう段階ではないんじゃないかというふうに思っておりますので、当尾地区の将来を考えるとということと当尾小学校で学ぶ子どもたちの教育を考えるとということは、少し切り離して考えていけたらなというふうに思っております。

なお、南加茂台小学校との交流につきましては、一定、学校段階で進めてもらっておりますし、加茂町では修学旅行を加茂にあります四つの小学校がそろって同じ方面への修学旅行を実施しています。いろんな形で学校現場の先生方は同じ地域で学ぶ子どもたちの交流の機会をつくってもらっておりますので、決して急にそんなことで突然というようなことはないというふうに考えております。

以上です。

○議長（中野 重高） 呉羽さん。

（呉羽 真弓君登壇）

○8番（呉羽 真弓） 京都市の例をいただきました。私もパンフレットをちょっとある方からいただきましたが、やっぱり京都市は性急な進め方で失敗した事例があったようで、その後、十分皆さんに考えていただきたいということでパンフレットをお出しして、市民の側、保護者の側、地域の側からそういう提案ができるような形で進められていると、本当に学ぶべき進め方だというふうに思います。

やっぱり、学校の教育、それと学校の教育の均一性というようなことをおっしゃっていただいたと思いますが、お言葉ですが、国際同志社インターナショナルを誘致する木津川市です。やっぱり、そういう意味で言ったら多様性を認めるというところの学校教育も一つの柱にしていけないかなというふうに私は思っています。

それと、私自身も母校はなくなっておりますので、そういう意味では、統廃合した結果とか、統廃合した後のことというのはよくわかります。だからこそ、今一緒にこの地域を考えようと熱い思いを持っている人たちを排除するわけではなく、地域とともに考える、その姿勢が望ましいというふうに思います。

決して、無関心な人たちではなく、反対だろうと賛成だろうと、その問題に直接向き合っている人たちとともに、この地域のあり方、この学校のあり方、そして木津川市のあり方を考えるからこそ、この新しい市がつくられていくというふうに思いますので、そこをなくして行政主導で進めていただきたくないというふうに思いますので、最後の質問にしたいと思いますので、教育長の今までのお考えを聞かせていただきましたけれども、地域とは別だということではない、地域とともにというところを改めて聞かせてくださいというか、そのことについてお考えを聞きたいなというふうに思います。

○議長（中野 重高） 教育長。

（教育長 久保 三左男君登壇）



○教育長（久保 三左男） 呉羽議員のご質問にお答えいたします。

呉羽議員が一番最初の質問のときにもおっしゃいましたので、お聞きしたいなと思っておったんですけれども、いわゆる義務教育段階の多様性ということをも木津川市で求めるつもりはありません。木津川市の、いわゆる公教育の公立小学校で、この学校でしか学べないことがあるということをするのは、私はしたくありませんし、するつもりはありません。ただし、私立学校とか、いろんな学校がそれぞれの教育方針に基づいて、例えば宗教教育におきましても、仏教教育とかキリスト教教育を私立学校で行うことはできます。公立小学校や中学校では宗教教育を行うことはできません。

だから、そういうことに見られるように、やはり木津川市内の小学校に在学する子どもたちの教育については、やっぱり普遍性・平等性・一般性というものをしている、その中にそれぞれの地域の特色を少し入れていくというような学校教育でありたいなと思っておりますので、議員がおっしゃるような多様性を公立小学校で導入していったり、そのことに力を入れるつもりはありませんので、ご理解ください。

なお、当尾小学校にお子さんを通わせている保護者の皆さんの気持ちと当尾小学校の将来を考える皆さんの気持ちが一貫して、この問題が解決できるのが一番いい方法だというふうに思います。これは、皆さんもそう思っていることなんですけれども、しかしその問題が解決するまで当尾小学校を今のままで置いておくことが、19名が11名になってきます。そしたら、その時期を学ぶ小学1年生はその時期にしかその1年はないわけです。

だから、当尾小学校に子どもさんを通わす保護者の気持ちを考えていったら、少し問題は切り離して、子どもの教育ということから考えていく解決の仕方を教育委員会としては保護者の意見も聞きながら進めていく必要があるんじゃないかというふうに思いますので、そういうことを踏まえながら進めていきます。

なお、2問目のときにも申し上げましたように、多くの方々の署名や請願も出ています。このことについては真摯に受けとめ、それぞれのご意見があるということ踏まえながら、今後の解決の方策についての道を探っていきたいと思っていますので、よろしく願いをいたします。

以上です。

○議長（中野 重高） 呉羽さん。

（呉羽 真弓君登壇）

○8番（呉羽 真弓） 多様性について私に答えを求められているのかどうかはちょっとわからないんですけれども、それは置いておいて、アンケートの結果をもとにということでおっしゃっていただきましたので、そのアンケートの結果が72%、教育委員会がとった統廃合を望む声だったと。しかしながら、保護者の方が丁寧な1年間をかけて説明を何度もされた上でのとったアンケートは逆転しているという結果もあるわけです。

一トの結果も尊重した上で進めていただきたいというふうな思いはあります。

だから、一方のアンケートだけで結論づけることの危険性を指摘しているわけですので、その点は教育長と考えは変わらないというふうには思いますので、今後の進め方を慎重にというところを重ねてお願いしたいなというふうに思います。

反問権使っていただきまして、ありがとうございます。

○議長（中野 重高） 教育長。

（教育長 久保 三左男君登壇）

○教育長（久保 三左男） 私もアンケートにつきましては、先ほど申し上げましたとおりで、議員と全く意見が一緒だなと思っております。

今後の進め方につきましては、先ほども言いましたけれども、いろんなご意見があるという中で、この問題をどう解決していくのが当尾小学校で学んでいる子どもたちのためにいいのかという方向で問題を解決していきたいと思っておりますので、ご理解やご協力のほど、よろしくお願いをいたします。